Title	「貨幣問答」を中心として観たるサー・井リアム・ペチイの貨幣論(上)
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.6 (1917. 6) ,p.728(22)- 744(38)
JaLC DOI	10.14991/001.19170601-0022
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170601-0022

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「貨幣問答」を中心として観たるサー・

井リアム・ペチイの貨幣論 (上)

高橋 誠 一郎

一千六百九十五年貨幣改鑄の機切迫せるに際し、Sir William Petty's *Quantulumcumque concerning Money*, 1682. と題する四折判八頁の小冊子倫敦に於て私に上梓せらる。Sir William Petty の逝去後正に八年の星霜を經過せり。(此偉大なる經濟論者が足部の壞疽を病みて、聖 James 寺院に對立せる Piccadilly の居宅に永眠せるは一千六百八十七年十二月十六日夜のことなり。彼が一千六百二十三年五月二十六日午後十一時四十二分五十六秒 Test 河畔なる Hampshire の一小都市 Runsey に於て織染を職

とせる Antony Petty の第三子として呱呱の聲を揚げてより年を享くること茲に六十有四なり)。本書は同年別に又 A. and J. Churchill の爲めに印刷せられたるもの如し。彼の倫敦 Political Economy Club の爲めに一千八百五十六年 J. R. McCulloch の寄せたる原版に據りて翻刻せる A select collection of scarce and valuable tracts on money, from the originals of Vaughan, Cotton, Petty, Lowndes, Newton, Prior, Harris, and others. (會員並に其親近の間に分つが爲めに百二十五部を印刷せるもの中に挿入せられたるもの是なり。同書百五十七—六十七頁)。是より前一千七百六十年 J. Massie の出せる *Observations relating to the coin of Great Britain*. の巻尾に添加せられたるもの(其三十二頁以後)は一千六百九十五年の私版を底本とし、最も信頼す可き寫本に據りて校訂せるものなりと稱せらる。猶ほ同書は一千七百四十八年に刊行せられたる A collection of scarce and valuable tracts, on the most interesting and Entertaining Subjects. の第四卷七十三—九頁並に一千八百十三年 Walter Scott の増補改訂せる同書第八卷四百七十二—七頁中に編入せられたり。

此一千六百九十五年本の原版たる一千六百八十二年本は珍本中の珍なるもの

にして Charles Henry Hull の如きも一千六百九十五年版は之を五部發見したるに拘らず、一千八百八十二年版に至りては未だ之を見たることなしと謂へり。(The Economic Writings of Sir William Petty. 一千八百九十九年版第二卷、四百三十八頁並に六百三十八—九頁参照)。McCulloch は其 Literature of Political Economy: a Classified Catalogue of Select Publications in the different Departments of that Science, with Historical, Critical and Biographical Notices. に於て Quantulumcunque; or a Tract concerning Money. の題下に此書を擧げ、其出版の年を一千六百八十二年と明記したるを以て(一千八百四十五年版百五十五頁)彼は一千六百九十五年版以外に其原版たる一千六百八十二年版をも熟知したるが如しと雖も、茲に些か疑問とす可きは(第一)彼が果して一千六百八十二年版の存在を知悉したりとせば、何故に倫敦經濟俱樂部が珍籍刊行の擧に際し、此原版を寄せずして、一千六百九十五年の Church 版を以てせるか(第二)彼は一千六百八十二年版を以て四折判と明記せるが(前掲 The Literature of Political Economy. 百五十五頁)一千六百九十七年に刊行せられたる Proposals for a National Bank, setting forth how Three Millions of Pounds may be raised, に附録として加へられたる A Complete Catalogue of all

Books lately Printed concerning the Coin. に據るに此書は八折判二葉に印刷せられたるものとあり。同年の刊行に二種ありしや、若しくは孰れか一方の記する所誤謬なるにや、姑く之を確證するの資料なきに苦む。經濟書史の權威として McCulloch が常に必ずしも信賴するに足るものに非ざること吾人が嘗て「トーマス・マンと其時代」(二)三田學會雜誌第九卷第十號所載)に於て注意せる一例に就きても明かなる可し。猶ほ又本書を以て一千六百八十一年の著なりと書せるものあり。HE 教授の調査に據るに大英博物館所藏 Harleyan 手寫本(Oxford 伯 Robert Harley の始めたる大蒐集)に由りて指示せられたる所の如き是なり。然れども此書が The Lord Marquess of Halifax に献本せられたる事實より推して其一千六百八十二年以後のものなること疑なきに似たり。何となれば George Savile Halifax (一千六百三十三年—九十五年四月二十日)が子爵より侯爵に昇されたるは一千六百八十二年八月二十二日のことなればなり(Doyle 編 Official Baronage 第二卷九十三頁)。加之、此手寫本は十八世紀に至りて成れるの觀あり、其 Quantulumcunque を載せたる數頁の如きは頗る輕忽に手寫せられたるものなりと謂ふ(Economic Writings of Sir W. Petty. 四百三十八頁)。

Quantumcunque concerning Money.を以て一千六百八十二年の著なりとせば、それはPettyが當時其必要に迫られつゝありし愛蘭土の歳入整理に關する樞密院の討議に參加するが爲めに倫敦に召致せられ、同地に滞在せる間に成りしものなる可し(彼が愛蘭土に歸りたるは一千六百八十三年夏のことなり)。PettyはDunleary(今のKings-town)より快走艇に乗じて危険なる旅行を行ひ(彼が一千六百八十二年六月五日午前六時 Chesterより發したる書簡に據る)倫敦に着するや直ちに歳入請負の制度を全部革除し、租税徴收の上に秩序と整齊とを齎し、而して王國の收入を増加すること多大なる可き諸般の大改革(苛重なる強麥酒販賣免許料の賦課を含む)の實行に關する計畫を樞密院に致せり(Edmond Fitzmaurice 卿著 The Life of Sir William Petty, 1623-1687. 一千八百九十五年版第二百五十一頁)。彼は嫌惡す可き歳入請負の制度を廢止するに於て成功し得たりと雖も、然も彼が他の提案は棄却せられたり。而して彼の計畫を打破するに於て其年來の競敵たる Sir James Shaen の手が作用したるの事實を知るに由りて彼の失望は殊に大なりしなり。當時の消息は彼の尺牘に據りて最も良く之を窺知するを得るなり。即ち彼は一千六百八十二年九月五日 Sir

Robert Southwell (Petty 夫人の親戚、一千六百三十五年十二月三十一日生—一千七百〇二年九月十一日死)に與へて曰く、“Yesterday came to town. It was declared on Sunday night at Windsor, viz: that the Revenue of Ireland is to be managed by the Lord Langford, Sam: Kingdon, one Mr. Strong, of the Excise, Mr. Dixon, of ye Customs of London, and Captⁿ Bryden, of Dublin, who as 'tis thought does but represent Mr. Trant. By good luck I never solicited any body in the case. I only put in 3 severall papers of proposals, which I think did the service no harme.”云々。彼の競敵 Shaen は新たなる取立請負に由りて國王の歳入を一ヶ年約八萬磅の割合を以て増加せしむるの議を提出せり。洵に Sir William Temple の所謂 “a farm indeed, as it was drawn up not of the revenue but of the crown of Ireland”たるものなり (Works 第二卷五百二十六頁)。然も Temple が愛蘭土太守に再任せらるゝの密計を運らしつゝあるものなりと稱したる Essex 伯 (Arthur Capel 卿、一千六百七十二年より七十七年まで愛蘭土太守たり。一千六百七十三年五月四日彼は Shaftesbury 伯に宛て、余は陛下の三王國の全部を通じて Sir William Petty よりも、いふにだてる者あることなきを確信す」と謂へり)の有力なる援助は Shaen の爲めに與へられたり。Petty は Ormo-

nde 公 James Butler. Essex 伯に次で再び愛蘭土太守たりし人)よりして彼を罵りて品玉師と稱し或は狂人に近き妄想家なりと做す者あるを聞けり。"Tis said the managers are to have 1,000 £, per ann., without any obligation whatsoever, and I suppose they may treat how and with whom they please concerning Tangier and the ships; whereas I did in a manner undertake for the whole by demonstration, by oath, and a wager of 2,000 £. But I am represented (as the Duke of Ormonde told me this day) by some to be a conjurer, by others to be notional and fanciful, near up to madness, and also a fanatick." (Southwell に與へたる一千六百八十二年九月十二日の書簡)。實に彼が倫敦に現れたるは宮廷並に公術を圍繞せる請負業者の間に大恐慌の警報を傳へたるものなりき。遮莫窮迫せる國庫の所要は終に此案を採用せしむるに至らしめたり。Petty の失望想ふ可きなり。

Halifax 卿が貨幣改鑄の計畫は當時既に問題と爲り居れる所にして Petty が一千六百八十二年九月五日 Southwell に寄せたる書中に "I have writ three sheets in answer to thirty-one Questions (上記諸版本に見れたる所にては三十二問なり) concerning Money. If it take, for I renounce all judgment of my own, you shall have a copy." と謂へるは即ち此書

を指せるものにして是に由りて観るに此書の成れるは同年八月若しくは九月のことなりしなる可し。(此書の表題は *Quantulumcunque* なる羅典語の意義に基き之を「貨幣小論」と稱するを適當と思惟するも、姑く其内容の體裁より見て「貨幣問答」と呼ぶ)。

「新鑄造貨の二十志は慣習若しくは條例に従ひ金量四オンスの量目を有するものと想定せよ。(英國貨幣の初めて廣く溶解せられしは一千六百六十二年十一月五日附 Charles 第二世の勅命による。詳しくは William Lowndes が匿名の書 *A Report containing an Essay for the Amendment of the Silver Coins*. 一千六百九十五年版九十五頁以下参照)。而して Elizabeth 並に James の時代に發行せられたる舊貨は等しく金量四オンスの量目は概算に過ぎず、實は本位銀の金量十二オンスが六十二志に鑄造せらるゝなり)を有す可きものなるも事實金量三オンスの量目を有し、而して三オンスと四オンスとの間に於て種々の相違あるも三オンス以下のもの及び完全に四オンスの量目を有するものなしと想定せよ。次で新たに鑄造せられたる正規貨幣の多くは東印度に輸送せらるゝも輕量にして且つ不齊なる貨幣には毫も其

事なしと想定せよ。彼は問答に入るに先立ちて先づ斯くの如き條件を約定せり。不齊なる舊貨幣は之を新たに鑄造し而して齊一ならしむ可きものなりや否や。答へて曰く「當に然る可きものなり。何となれば金銀よりなれる貨幣は商業の最良の規矩たるものなるが故に劃一ならざる可らず然らずんばそは決して規矩として見る可はず而して又必然貨幣たる性質を失ひ其磨滅用損して不齊一を來すに至りし以前に於て貨幣たりしものは今や單に金屬たるに過ぎざるに至る可ければなり」と。彼が死後の出版に係る名著 *The Political Anatomy of Ireland* に於て「貨幣はあらゆる貨物の價值に對する一定不變の度量並に尺度なりと思惟せらる」との定義より出發して愛蘭土の幣政を論じたと同一の基礎に立つものと稱す可し(一千六百九十一年版六十八頁、一千七百十九年版 *Political Survey of Ireland* は此著の訂正増補なり。同書に再版とあるは *Political Survey* の再版たるを示せるにあらず。一千七百六十九年並に一千八百六十一年翻刻せらる)。然れどもこは單に定義に過ぎずして彼は果して從來斯くの如き度量の存在し得たりしや否やを疑へり。(A Treatise of Taxes and Contributions. 一千六百六十二年版三十二頁參照本書の全

題號は吾人曾て「フ・ジョクラートの純收益論」三田學會雜誌第十一卷第三號所載中に於て之を掲げたり世界は金及び銀を以て貨物を計量するに慣れたり。然も這般の度量は價值の眞度量たるの條件を満すものにあらず。第一に彼等は自然の度量にあらず。穀物と銀との間の比例は人爲的の價值を與ふるものなり何となればそは自然に有用なる物と其物自身に於ては不用なる物との間の比較なればなり。(同書七十頁。更に又そは不變の度量にあらず即ち銀の價值は動搖して不定なればなり。そは金鑽よりの遠近のみならず純然たる偶發的原因に由りても一地方に於ては他よりも價值大なることあるなり (The Political Anatomy of Ireland. 前掲版六十五頁。そは一月若しくは其他短期間の以前よりも現今に於て價值大なることあり得可く又貨物に改造せらるることある可し。銀器を以て交易を行ふ時は同一の銀を使用するよりも以上の貨物と交換し得可しとせば貨幣を以て器具を製造するに至る可し。金銀兩金屬の内其一方のみが貨幣たる妥當の資料にして他の金屬は貨物たるに過ぎざるなり(同書六十八頁。金銀の比較的價值は土と人の勤勉によりて兩者中其一方を多量に生産するに因りて動搖す。

彼は其把持せる勞働價值説に基き彼等の間に眞の比例を確定す可き唯一の方法は双方の發掘及び精鍊に要する勞働の高に之を歸せしむるにありと倣せり。最も多數の勞働者を雇傭し得る能力を有する人は最も富める者なり (V. Treatise on Taxes and Contributions. 三十三頁)。斯くて吾人は又一國內に於ける現今の貨幣と或る過去の世紀に於ける貨幣とを比較するの困難を知悉するを得可し。吾人は先づ第一に其折々の吾が名價の相違を知らざる可らず。往時三十七志を鑄造したると同量の銀より當時は六十二志を鑄造するなり。其他猶ほ吾人は品位、量目並に純分公差、鑄造手数料及び造幣收益に關する規定如何を知らざる可らず。而して這般の事實を悉く了知すると雖も然も尙ほ其勞働購買力を確定するに非ざれば吾人の知識は未だ以て精確なりと稱するを得ず(同書三十二—三三頁)。金銀より成れる貨幣が商業の最良の規矩たるは彼等が壞滅の憂少なき貨物にして他の貨物に比し其價值變動の虞比較的少なきものなればなり。(Publications of the American Economic Association. 第九卷第四號. Wilso nLloyd Bevan 著 Sir William Petty: A Study in English Economic Literature. 一千八百九十四年八月版六十五頁參照)。

第二問に曰く、果して舊貨を改鑄す可しとせば、そは何人の費用に於て之を行ふ可きや。答へて曰く、今と等しく國家の費用に於て行ふ可きものなり。何となれば其所有者は之が不齊一を來せるに對し責任を有するものにあらずして、唯だ國家が斯くの如き惡弊を防止し且つ責罰するを怠りたるより來るなり、而して這般の惡弊を貨幣の改鑄に由りて救治せんとするものなればなり。三度問ふ、新貨幣は如何なる量目及び品位のものたる可きか。曰く、現今流通せる他の新貨並に舊貨幣が其發行當時に於て維持したる品位量目のものたらしむ可し。即ち條例に従へば彼等は皆悉く同一のものたらざる可らず、而して總て實際貸與せられたる所のものと同一のものを以て舊時の債務を償還するに適せしめざる可らざるが故なりと(以上 Quantuluncque concerning Money 第一頁)。

第四問に曰く、舊貨二十志を以て僅に十八志の新貨を鑄造し得るに過ぎずとせば、差引二志の損失は何人の負擔たる可きものなりや。答へて謂ふ、人々はその所有者の貨幣を削取することある可きが故に、國家は其損失を負擔す可きものにあらず、然も其所有者は輕量且つ缺損せる貨幣を受理することを拒絶し、又は適當なる

時期に於て之を處理することを得るが故に彼自ら其損失を負擔せざる可らず。即ち其所有せる不齊なる舊貨に對し國家の費用を以て之と同一の量目を有する齊一美麗なる新貨を與ふるを以て足れりとす。

斯くて彼の貨幣論は貿易論に突入せり。問ふて曰く、這個鑄貨改造の後は従前に比し多量の銀が英國を去りて東印度の如き土地に輸送せられ、爲めに英國の損害と爲ることあらざるや。答へて曰く、多少其量を増加するに至る可きも、然も決して英國の損害を醸すものにあらず、寧ろ其利益と爲る可し、何となれば商人は其西班牙の^カ貨を輸送したる場合には單に其金屬を尊重せるに過ぎざりしに今や是以上に新貨幣の製作をも估料するに至る可ければなり。更に問ふ、當時商人は狸々^狸並に銀を印度諸邦に輸送しつゝあるも、將來は單に新鑄の銀のみを輸送するに至ることなきか。曰く、商人は新鑄の貨幣一百志に對し出來得る限り多量の狸々^狸並を購入し、而して後同一貨幣よりなる他の一百志に對するよりも其狸々^狸並を以て印度に於て多量の絹を取得し得可きや否やを考慮するなる可し。而して此推定に従ひ或は狸々^狸並或は正貨を輸送す可く、彼にして若し決斷を得る能は

ざれば一部分は狸々^狸並、一部分は正貨を輸送するなる可し。

然れども英國は商人等が上述の一百志を國外に輸送するに因りて貧窮と爲ることなきや。曰く、若し彼にして一百志以上恐らくは二百志を生ず可き絹を其輸送したる貨幣に代へて本國に輸入し、而して後英國に同一の二百志を齎し、又は彼にして英國人が同一貨幣の二百志を彼に支拂ふ可き胡椒を國內に齎せりとせば英國は決して是に由りて貧窮となるものにあらず。斯くて商人並に英國は俱に此一百志の輸出に由りて利得す可し云々と。以上の所論は洵に Bevan 並に Hill の注意せるが如く讀者をして坐ろに Thomas Mun が England's Treasure by Foreign Trade 第四章の所言を想起せしむるものあり、前掲 Sir William Petty. 九十六頁並に Economic Writings of Sir W. Petty. 四百四十一頁前者は England's Treasure を以て一千六百六十二年版と記せり。六十四年の誤なる可し。遮莫西紀前四百三十年乃至三百五十七年の古に於て Walter Moyle によりて「政治算術」を使用せる最初の著者と稱せられたる Xenophon に同一の所論あること一層注意す可きの事實なり、同氏譯 A Discourse upon

Improving the Revenue of the State of Athens. by Charles D'Avenant. 著 Discourses on the Public

Revenues, and of the Trade of England. 第一部、一千六百九十八年版の附録として印行せらる。The Political and Commercial Works of that celebrated Writer. Charles D'Avenant, L.L.D. 1

千七百七十一年版第一卷三百十三頁並に其註釋三百三十三頁參照。

然れども若し新鑄造の貨幣が舊貨幣に比し其四分の三の量目を有するに過ぎずとせば商人は全然彼等に關與することなく、従つて又國家を貧窮ならしむるの虞なきを得可きにあらずや。答へて曰く、然も猶ほ商人は宛も舊時の如く之を輸出して變らざる可し。唯だ彼が舊貨に對して與へたる所のものに比し削減せられたる新貨に對しては其四分の三の胡椒又は他の印度産貨物を給付す可し、而して印度に於ては彼が従前舊貨に對して得たる所に比し四分の三に相當する胡椒を受理す可し、斯くて其結果は貨幣の名價によりて之を收受し其量目及び品位に依らざる一部少數の愚者の間に於ける外、何等の相違をも生ずることなかる可し。

第九問に曰く、若し新鑄造の結果一志の貨幣は其現在に於ける量目の四分の三に減殺せられたりとせば、吾人は是に由りて現今吾人が有する所よりも三分の一だけ貨幣の高を増加することとなし、結局吾人はそれだけ富有と爲るにはあらず

るか(以上第二頁)。答へて曰く、汝は新たに命名せられたる志シヤリシクを三分の一がた多く所有するに至ること事實なり、然れども銀は其一オンスをも増加するものにあらず、従つて貨幣亦然り、加之汝は舊時に比し汝の増加せる新貨の全部に對し一オンスたりとも外國貨物を餘分に取得すること能はず、如何なる内國貨物に對しても亦之を餘分に取得すること能はざる可し。恐らくは唯だ其當初に於て上記の如き少數の愚者より數分之を期待し得るのみ。例へば汝が一金匠より二十オンスの重量を有する銀器を一オンス六志の割合にて六磅即ち鑄貨の形態に於ける銀の二十四オンス(即ち馬の假定に従へば英貨六磅は金量二十四オンスの量目を有することゝ爲る)を以て購入すると想像せよ。然るに今や前述の六磅は二十四オンスの量目を有したるものが新鑄造と共に十八オンスの重量に輕減せられたるに拘らず尙ほ國王の宣言により六磅と稱せらるゝものと想定せよ。然らば其金匠は製作を加へざる銀の十八オンスに對し加工せる二十オンスの重量ある銀より成る該器具を與ふ可しと想像し得るか。即ち貨幣の製作に對する價值は殆んど謂ふに足らざるを以てなり。斯くて這般の不合理は縦令貨幣と同一の資料

より成る貨物に於けるが如くさまで明白にはあらざるもあらゆる他の貨物に於ても等しく之を認むるを得可し云々と。(未完)

支那と關稅問題 (三)

阿 部 秀 助

三

吾人は前章に於て、輸入貨物の支那市場に於ける實際的価格と之れが海關に於ける評價格との間に著しき相違の存することを指摘せり、今、假りに支那政府が以上の状態に鑑みて、現實五分税に引上げし場合に、我が對支輸出商品は果して如何なる影響を被むる可きやに就きて考察するに、自から樂觀す可きものと悲觀せらるゝものとあり、即ち前者に就きて見る時は、黃燐燐寸(實際上の從價率六分四厘)安全燐寸(同五分一厘)九州炭(六分五厘)紙類(最高五分六厘)海産物(最高八分五厘)木材類(最高七分)等の如きは現時に於て既に現實五分以上に達するものなるを以て、關稅改正の結果、何等の損失を招かざるのみならず、寧ろ實際上有利の地位にあり、之れに反して、最も悲觀せらるゝものは、今日迄殆んど實際上、從價三分の地位にある綿